# 第１回　大橋川改修に関する環境検討委員会　議事要旨

【Ⅰ】開催日時　平成 17 年 1 月 26 日（水）　13:30～16:30

【Ⅱ】開催場所　くにびきメッセ　多目的ホール

【Ⅲ】出席委員

| | |
|---|---|
| 島根大学生物資源科学部教授 | 相崎　守弘 |
| 鳥取大学地域学部地域環境学科教授 | 岡田　昭明 |
| 島根大学汽水域研究センター長 | 國井　秀伸 |
| 島根野生生物研究会 | 越川　敏樹 |
| 島根野生生物研究会 | 佐藤　仁志 |
| 九州大学大学院工学研究院教授 | 島谷　幸宏 |
| 島根大学総合理工学部物質科学科助教授 | 清家　　泰 |
| 島根大学副学長 | 高安　克己 |
| 日本野鳥の会鳥取県支部長 | 竹中　　稔 |
| 京都大学大学院工学研究科附属<br>環境質制御研究センター教授 | 田中　宏明 |
| 鳥取大学地域学部地域環境学科教授 | 鶴崎　展巨 |
| （有）日本シジミ研究所所長 | 中村　幹雄 |
| 鳥取大学学長 | 道上　正規 |

【Ⅳ】配布資料

資料１　議事次第・委員出欠票・席次

資料２　委員会　運営資料

- 設立趣旨
- 委員会規約（案）
- 委員会の運営及び情報公開の方法について（案）
- 報道関係者の方へのお願い
- 一般傍聴の方へのお願い

資料３　大橋川改修に関する環境調査の進め方

資料４　大橋川改修に関する環境検討資料

資料５　大橋川改修の具体的内容に関する塩分予測

資料６　参考資料　（委員のみ配布）

資料７　重要種に関する資料　（非公開資料）

## 【Ⅴ】議事次第

1.検討委員会規約等について　（資料-2）
　1-1 委員会規約
　1-2 委員会の運営及び情報公開方法について
2.大橋川改修の具体的内容　（資料-5）
3.大橋川改修に関する環境検討
　3-1 環境調査の進め方　（資料-3）
　3-2 水環境の現状　（資料-4）
　3-3 動物・植物の現状　（資料-4）
　3-4 改修の影響予測方法に関する基本的な考え方　（資料-4）
4.質疑応答
5.その他（次回検討会の日程等）

## 【Ⅵ】議事概要

1.委員長の選出
・委員長に道上委員（鳥取大学学長）を選出した。

2.委員会規約について
・「委員会の運営及び情報公開の方法について」（委員会資料の情報公開について）以下の項目を追加する。
　追加項目　「貴重種の生息・生育場所が特定できる資料は非公開とする。」
・この委員会では（環境調査について）、客観的な評価を行うのか技術的助言を行うのか。
　→　事業者側の評価案について、専門的な立場から科学的な見解に基づき、技術的助言をして頂きたい。＜事務局＞

3.大橋川改修の具体的内容について
・大橋川改修の具体的内容について行った、塩分濃度の予測計算に使用したモデルについて検証方法及び検証結果を提示して欲しい。
　→　検証方法及び検証結果については、次回の委員会で提示する。＜事務局＞
・斐伊川の治水計画についてもいずれ説明をしてもらいたい。

4.大橋川改修に関する環境検討

4.1 水質調査
・水質の予測は年間を通じた予測をしてもらいたい。
　→　以上の助言を踏まえ、調査計画を立案する。＜事務局＞

4.2 生物調査
・生物の季節的な変化も捉える必要がある。そのため少なくとも１年間の調査が必要である。
・重要種には、「貴重種」といわれるもの以外に、ヤマトシジミ、アサリ、ワカサギなど水産資源として重要なものも含めるべきであると思う
・生物調査は調査手法によって結果が異なることから、調査手法の選定には注意してほしい。

・魚類に関しては、中海から宍道湖への遡上が重要で、その際、単に量による採捕結果だけでなく、そのときの気象や水質状況を含めたデータを個々にとる必要がある。
・大橋川改修は、大橋川の水深の浅い箇所に変化を与えるため、水深、水位と生物との関係が把握できるような調査をしてもらいたい。
・大橋川改修事業による環境保全対策を考えて行くために、大橋川の支川を含めて生物環境等の調査をした方が良い。
・環境調査においては、個別項目の調査にとどまらず、シジミや植物プランクトンの変化など、水質と生態系の変化の相互関係が分かるような調査をしてほしい。
→　以上の助言を踏まえ、調査計画を立案する。＜事務局＞

4.3 底質調査

・大橋川の改修により、大橋川の底質（生物への影響を考え）がどの様に変化するか調査を行っておく必要がある。
・大橋川を掘削すると、過去に溜まった地層が露出することから、河床の地質を調査しておくことが必要である。
→　以上の助言を踏まえ、調査計画を立案する。＜事務局＞

4.4 バックグラウンド

・大橋川改修の予測を行う時の、バックグラウンドを明瞭に提示してもらいたい。
・尾原ダムの完成により、宍道湖へ流入する負荷量が変わり、宍道湖の水質が変わる可能性がある。水質のバックグラウンドとしてどのように扱うのか情報提示をしてほしい。
・水質予測を行う時に、バックグラウンドを全部入れることは不可能であると思われる。ある範囲内の議論で押さえていくことも一つの方法である。＜道上委員長＞
→　水質予測を行う時のバックグラウンドについては、調査計画書において整理を行う。＜事務局＞

4.5 その他

・昭和初期に行われた大規模な大橋川拡幅による環境の変化について、過去の資料等を調べることが望ましい（過去の人工的な改変によって、現在の宍道湖の汽水環境が形成された経緯について）
→　資料の調査は行いましたが、有効な文献が見あたりませんでした。再度、文献、資料の確認を行います。＜事務局＞
・水利用の視点から大橋川中流部、大橋川と朝酌川合流点付近の水質変化を詳細に検討してもらいたい
→　大橋川中流部の水利用状況の実態調査を行って、調査計画を検討する。＜事務局＞
・環境調査の結果に基づいた環境への影響予測結果や景観などについて検討が行われた結果、影響によっては改修計画に関する委員会を開催するのか。
→　大橋川改修を行うことによる影響等について、環境調査を実施していく。影響の程度に応じ対応策等を含めて、この委員会での助言を得て検討していく。＜事務局＞
・調査は、５年、１０年やるのは大変である。１，２年に関してダイナミックな動き

が捉えられるような資料とした方がよい

5.その他（次回の委員会の日程）

・次回の委員会は３月２４日に開催する。

以　上